

# J A 全農ちば 営農情報集 (7月号)

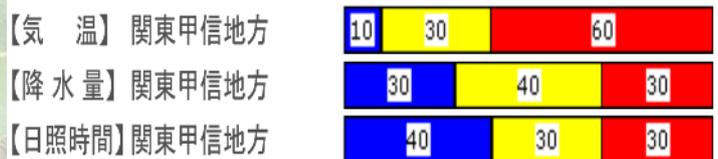
## 今月の情報

1. 水稻・当面の対策について
2. 園芸野菜・病害虫防除情報
3. 果樹・病害虫防除情報
4. ブロッコリー新品種について  
12月～1月収穫向けの新品種を紹介します
5. 農業経営のリスクを減らしましょう  
熱中症対策について

7月の気象について（気象庁 6/25 発表 長期予報（1か月）から）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

1. 例年と比較し、7月を通して気温は高い傾向です。施設栽培では温度管理、高温対策にご注意ください。  
(前回6月号に高温対策の記事有り)  
また熱中症にも注意しましょう。



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(長期予報(1か月)は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう)

令和2年7月

J A 全農ちば 営農支援部

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中!

全農ちばHP < <http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html> >

# 水稻・当面の対策について

## ～コシヒカリの穂肥、乳白防止・カドミ抑制の水管理、本田防除～

JA全農ちば  
営農支援部

### 1. はじめに

6月に入ってから気温・日照ともに高く生育は全体的に進んでいます。4月20日植えのコシヒカリは、6月21日頃から幼穂形成期を迎えています。5月1日植えのコシヒカリについては6月27日頃(平年より4日早い)に幼穂形成期を迎えています。

過繁茂状態の圃場は倒伏や品質低下を避けるため、穂肥の施用時期・量に注意しましょう。

また、昨年の刈り取り以降、降雨が多く、稲ワラの腐熟が進まなかったため本年では還元障害(ガス害・ワキ)が各所で散見されています。「根の活力維持」のためにも幼穂形成を確認するまではしっかり中干しをおこないきましょう。

### 2. コシヒカリの穂肥の施用について

穂肥の施用適期は出穂前18日～10日(幼穂長1cm～8cm)で、施用量の目安は10a当たり窒素3kgです。施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不足や玄米の外観品質低下を招き、遅い穂肥は玄米中の粗タンパク質含有率が高くなり、食味低下につながります。生育を確認し、茎数の多い圃場や葉色の濃い圃場では、施用量を減らして対応しましょう。

表1：コシヒカリ幼穂形成期予測と穂肥施用適期の目安

植付時期		県北	九十九里	内湾	県南
4月20日	幼穂形成期予測	6/25	6/21	6/21	6/21
	穂肥目安	7/2～ 7/10	6/28～ 7/6	6/28～ 7/6	6/28～ 7/6
5月1日	幼穂形成期予測	7/1	6/28	6/27	6/27
	穂肥目安	7/8～ 7/16	7/5～ 7/13	7/4～ 7/12	7/4～ 7/12

出典：千葉県 水稻の生育状況と当面の対策第4報(令和2年6月29日号)より

### 3. 乳白米防止とカドミウム吸収抑制のために水管理の徹底を！

乳白米と自然由来のカドミウム吸収を抑えるため、幼穂を確認したら入水し、**出穂3週間前～出穂2週間後まで（計5週間）**は湛水状態を保ち、**収穫直前の出穂後25日頃**まで間断かんがいを続け、早期落水は避けましょう。

乳白米は天候や生育量、肥培管理など様々な要因により発生します。特に登熟期の水不足は乳白米等の多発生につながるので湛水管理をしっかりと行い品質の低下を防ぎましょう。

### 4. 斑点米カメムシ類対策について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」などの早生品種は、まもなく出穂期を迎えます。出穂後に斑点米カメムシ類が周辺の雑草地などから圃場内に飛び込んできますので、特に注意が必要です。

#### (1) 雑草防除

圃場周辺の畦畔や休耕田などの雑草地は、カメムシの発生源になるため、雑草防除は効果的ですが、出穂前後の草刈りはカメムシ類を圃場内に追い込むこととなりますので、**出穂の2週間前**までには圃場周辺の雑草を防除しましょう。

#### (2) 薬剤防除

有人・無人ヘリコプターによる防除を行っている場合でも圃場をよく観察し、必要に応じて追加防除を行ってください。

粉剤または粒剤を使用する場合、粒剤の方が農薬の飛散対策や使用者の労力負担軽減の面で有効的です。散布に当たっては、風向き等の気象状況を十分考慮し、散布するようにしましょう。

表2:斑点米カメムシ類対策薬剤散布時期の目安

出穂期	1回目散布(出穂期～穂揃期) 【成虫対象】	2回目散布(乳熟期～糊熟期) 【幼虫対象】
7月15日	7月15日～18日	7月29日～8月3日
7月20日	7月20日～23日	8月3日～8月8日
7月25日	7月25日～28日	8月8日～8月13日
7月30日	7月30日～8月2日	8月13日～8月18日
8月5日	8月5日～8月8日	8月19日～8月24日

※出穂期は、全体の40～50%が出穂した日、穂揃期は、全体の80～90%が出穂した日

クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



表3：カメムシ類の主要防除薬剤

薬 剤 名	使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	備考
スタークル粒剤	3 kg	7 日前まで	3 回以内	出穂期～穂揃期に湛水状態で散布 水深は3～5 cmが効果を最大発揮
スタークル豆つぶ	250 g			
キラップ粒剤	3 kg	14 日前まで	2 回以内	出穂 10 日前～出穂期に湛水状態で散布
トレボン粉剤DL	3～4 kg	7 日前まで	3 回以内	
MR. ジョーカー粉剤DL	3～4 kg	7 日前まで	2 回以内	
MR. ジョーカーEW	2000 倍	14 日前まで		

## 5. 本田病害対策について

### (1) いもち病

- ・感染に好適な条件は、平均気温20～25℃でイネが雨や露で濡れている状態が続くと発生しやすくなります。
- ・蒸れやすい状態（補植用の苗など）や窒素過多でも助長されます。圃場をよく観察し発生に注意し、初期防除に努めましょう。

### (2) 紋枯病

- ・水田に落ちた菌核が越冬し、代かき時に水面に浮上、イネの株元に付着し伝染します。
- ・高温多湿条件で発生が多く、過繁茂（茎数増加）は発病を助長するので注意しましょう。
- ・本病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。
- ・薬剤での防除適期は出穂前10～7日です。

作成者：古内

# 園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば  
営農支援部

## 1. はじめに

果菜類の抑制栽培と秋冬作の作付け準備の時期を迎えます。予報では7月は平年より気温が高いため、育苗～定植初期の温度管理に注意しましょう。

また施設栽培（トマト、キュウリ、ナス、イチゴ等）、露地栽培（秋冬ニンジン等）それぞれ土壌消毒の時期となります。土壌消毒剤使用時のポイントを参考に防除を行いましょう。

## 2. ネギ【白絹病・軟腐病】

どちらも高温と多湿が重なると発生しますが、降雨がない場合でも灌水や土寄せで株元が蒸れると発生しやすくなります。灌水は早朝か夕方に、土寄せは片側ずつ行うなどの工夫が重要です。

### (1) 白絹病

前作の残さとして土壌に残ります。地際に白いカビが発生し、その後ゴマ粒状の菌核が作られます。

土寄せに合わせて薬剤防除を行いましょう。

### (2) 軟腐病

細菌性病害で防除薬剤に限られます。地際がとけるように腐敗し、被害部から悪臭がします。



白絹病

### ○ネギ白絹・軟腐病対策剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ・使用量	使用時期	使用回数	備考
白絹病	29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時但し 収穫 21 日前	2回以内	予防
	7	モンカット粒剤	4～6kg/10a	土寄せ時但し 収穫 30 日前	3回以内	予防
モンカットフロアブル 40		2000 倍	収穫 30 日前			
軟腐病	31	スターナ水和剤	2000 倍	収穫 7 日前	3回以内	予防・ 治療
	31・M1	ナレート水和剤※	1000 倍	収穫 21 日前		

※ナレートは銅剤とオキシリニック酸（スターナ）の混合剤

### 3. トウモロコシ【アワノメイガ】

アワノメイガは葉裏に卵塊を産卵します。特に雄穂が出始めてから産卵が多くなります。5月下旬～8月下旬にかけて、およそ3世代が発生します。幼虫は始め葉を食害しますが、やがて雄穂に食入します。食入される前の防除が必要で、特に雄穂開花期と開花終了後の2つのタイミングを逃すと被害が大きくなります。



雄穂開花期

★未成熟トウモロコシに使用できる農薬登録は、「雑穀類」「とうもろこし」「未成熟とうもろこし」です。「野菜類」「とうもろこし(子実)」「ヤングコーン」は未成熟とうもろこしには使用できません。

#### ○トウモロコシ アワノメイガ(他チョウ目含む) 防除剤+病害防除剤

薬剤系統他	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ネリストキン系	14	パダン粒剤4	6kg/10a ※	収穫7日前	2回以内
ジアミド系	28	プレバゾンフロアブル5	2000倍	収穫前日	3回以内
		ベネビアOD			
マクロライド系	6	アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫3日前	2回以内
合成ピレスロイド系	3A	トレボン乳剤	1000倍	収穫7日前	4回以内
すす紋病対策	-	トリフミン水和剤	2000~4000倍	収穫7日前	3回以内
紋枯病対策	-	リゾレックス水和剤	1500倍	収穫14日前	2回以内

※株の上から均一にかかるよう散布。一部分に偏るように処理すると薬害(葉の白化)などの原因になるので注意。

### 4. イチゴ【炭そ病】

ランナーや葉柄の病斑に形成された胞子が雨や灌水の飛沫とともに飛散し、托葉の部分からクラウン部を侵します。そのため、頭上灌水は発病を助長します。灌水をする場合は、底面吸水か、株元にのみ灌水します。県内ではQoI剤(アミスターなど)の効果が低下しています。治療的で有効な薬剤が少ないため、発生しないよう予防剤主体で薬剤散布を行いましょう。



#### ○イチゴ 炭そ病防除剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルコートフロアブル	1000倍	育苗期(定植前)	5回以内	予防
M3	ペンコゼブ水和剤	600倍	仮植栽培期 但し収穫76日前	6回以内	予防
	アントラコール顆粒水和剤	500倍	仮植栽培期	6回以内	予防
M4	オーソサイド水和剤80	800倍	収穫30日前	3回以内	予防
M1	キノドーフロアブル	500倍	育苗期	3回以内	予防
10	ゲッター水和剤	1000倍	収穫開始21日前	3回以内	予防・治療

## 5. 土壤消毒時のポイント

### ★★★ 各土壤消毒剤効果の特徴 ★★★

薬剤により対象病害虫が異なりますので、圃場で発生している病害虫の状況に合った薬剤を選択しましょう。

薬剤名	薬剤分類	センチュウ	病害	雑草種子
D-D剤 (テロン・DC油剤)	D-D	◎	×	×
クロルピクリン (ドロクロール)	クロピク※	△	◎	×
ソイリーン	D-D クロピク※	◎	◎	×
ガスタード微粒剤 (バスアミド微粒剤)	MITC	○	○	○
ディ・トラベックス油剤	D-D MITC	◎	○	○

※クロルピクリン剤は被覆が必須です！

### ★★★ 土壤消毒剤使用時のポイント ★★★

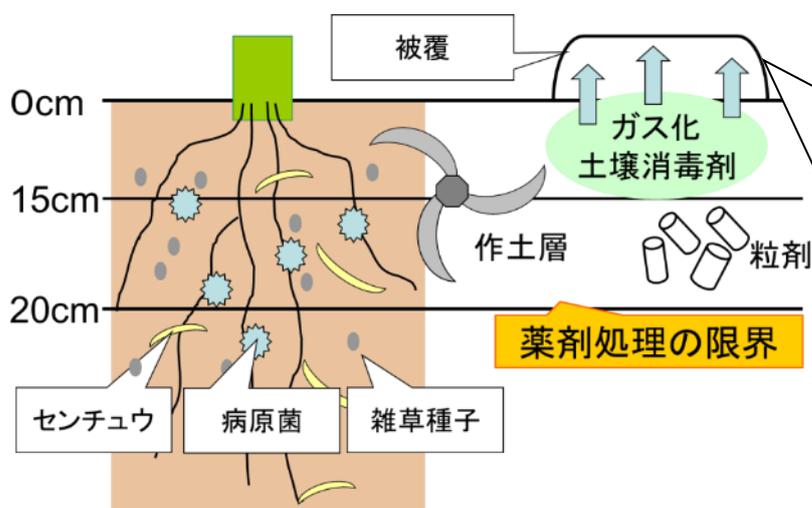
(1) 薬剤は土壤中でガス化しますので、被覆が必要です。

特に高温時はガス化が早いため、被覆を行わないとすぐにガスが抜けきってしまいます。ポリエチレン等の資材 (厚さ 0.03mm 以上) による被覆を行いましょう。

(2) 土壤水分の目安は、土を手で握って割れ目ができるくらいにしましょう。

(3) 圃場衛生管理 (耕種的防除)

前作の残渣はセンチュウ・土壤病害等の発生源となるので、収穫後にうない込まず、可能な限り持ち出しましょう。



#### 大切なポイント

(1) 被覆作業

被覆がないと、薬剤はガス化してどんどん抜けてしまいます。事故防止や効果を高めるために必要です。

(2) 丁寧な耕うん (ガスタード微粒剤)  
2回耕うんしましょう。

(3) 残さの持ち出し

発生源を減らさないと、薬剤の効果も十分に発揮できません。

作成：名雪

# 果樹 病害虫防除情報

J A全農ちば  
営農支援部

## 1. はじめに

果実の黒星病防除の重要時期です。今作では園により5月から黒星病の発生が見られるため、注意が必要です。降雨で散布タイミングを逃さないようにしましょう。

またシクイガ等のチョウ目・果樹カメムシ類・ハダニ類の発生状況を確認しましょう。特に昨年の台風被害により防災網の設置が不十分である園は、防除が遅れないようにしましょう。

## 2. 黒星病・輪紋病防除



黒星病



輪紋病

### 【7月】黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

7月上旬	インダーフロアブル【DMI (EBI) 剤】	10,000 倍（収穫7日前／3回）
	+ベルコートフロアブル	1,500 倍（収穫14日前／5回）
7月中旬	フルーツセイバー【SDHI 剤】	1,500 倍（収穫前日／3回）
	+オーソサイド水和剤 80	1,000 倍（収穫3日前／9回）

※輪紋病多発園ではフルーツセイバーの代わりにパレード 15 フロアブル 2,000 倍（収穫前日／2回）（SDHI 剤）でもよい。

収穫期 : トップジンM水和剤（輪紋病対策） 1,500 倍（収穫前日／6回）

- ・ベルコートフロアブル、オーソサイド水和剤 80 は予防に加え耐性菌発生対策のため使用します。
- ・オーソサイド水和剤 80 は果実に薬剤汚れが発生する可能性があるため、対策が必要な場合、展着剤まくびか 10,000 倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。
- ・収穫期以降の炭そ病対策では、ストロビードライフフロアブル（2,000 倍・収穫前日・3回以内）を散布。8月中下旬から台風が続くような予報が出された場合は、事前に防除を行いましょう。

### 3. カメムシ類・シンクイムシ類

**防災網の設置が不十分な圃は要注意**



#### カメムシ類・シンクイムシ類

7月上旬 : テルスターフロアブル 3,000倍 (収穫前日/2回) 【カメムシ・シンクイムシ対策】

7月下旬 : サムコルフロアブル 10 5,000倍 (収穫前日/3回)

【シンクイムシ対策・発生時の緊急防除にも使用】

収穫期 : ロディー水和剤 1,000倍 (収穫前日/2回) 【カメムシ・シンクイムシ対策】

#### 【カメムシ発生時】

7月中旬 : MR. ジョーカー水和剤 2,000倍 (収穫14日前/2回)

7月下旬 : アグロスリン水和剤 1,000倍 (収穫前日/3回)

多発生時 : スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (収穫前日/3回)

#### ●カメムシ類防除のポイント

園内のカメムシ類の発生動向と合わせて注意しましょう。カメムシの移動範囲は広く、主な発生源は園周辺の各種樹木（主にヒノキ、スギなどの針葉樹）です。夜行性のカメムシ類は日没後2時間ほどしてから見られるため、有効な薬剤を夕方散布します。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするので、地域でまとまって一斉防除することが理想的です。

#### 4. ハダニ類

被害が目立つのは7月中下旬以降ですが、ハダニ類は梅雨明け後に気温が高くなると増加が始まります。梅雨～梅雨明け直前ごろからのカネマイト・ダニゲッターによる防除を実施し、園内の発生状況を確認し、必要に応じて時期を調整しましょう。

○ハダニ防除剤

時期	薬剤名	主な効果	登録内容
(6月下旬)	カネマイトフロアブル	殺成虫・ハダニ対策	1000倍・収穫前日・1回)
7月上旬	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000倍・収穫前日・1回
7月中旬	ダニコングフロアブル	殺成虫	2000倍・収穫前日・1回
8月上旬～	マイトコーネフロアブル	殺成虫	1000倍・収穫前日・1回

作成：名雪

# ブロッコリー新品種について

## — 12月～1月収穫向けの新品種を紹介します —

J A全農ちば  
営農支援部

### 1. 増加傾向にあるブロッコリーの県内作付面積と収穫量の推移

ブロッコリーは栄養価の高さや食材として料理のメインとなるだけでなく、付け合わせなどでも使える緑黄色野菜として、安定した需要があります。

県内での作付面積と収穫量は、2018年の県内ブロッコリー作付面積は320ha、収穫量は2,390tとなっており、2009年と比較すると33ha・320tの増加となっています。

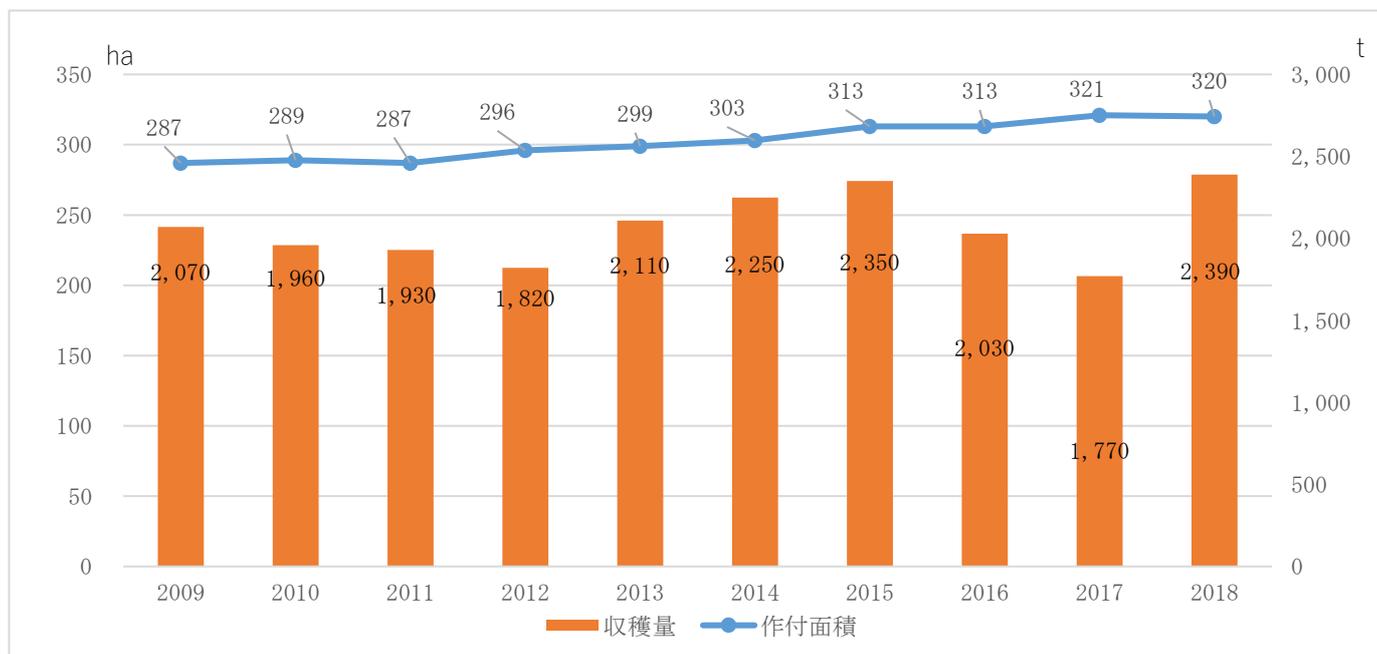


図1 千葉県のブロッコリーの作付面積と収穫量の推移 (2009-2018)

引用 農林水産省野菜生産出荷統計

### 2. 品種紹介

#### (1) 全緑173【朝日工業】

定植後90～120日前後で収穫できるアントシアンが発生しない中晩生品種。コンパクトな草姿で立性となり作業性に優れる。花蕾は濃い緑でスムーズなドーム状となり、よく締まり、粒の揃いが良い。空洞症・リーフィーの発生が少なく、低温でも伸張性に優れるため、厳寒期でも生育する。

#### (2) 全緑174【朝日工業】

定植後95～130日前後で収穫できるアントシアンが発生しない晩生品種で、全緑173同様に草姿がコンパクトで立性であり、作業性に優れる。花蕾は濃い緑となり、特に年明け以降はドーム形状と外観に優れる。収穫時期まで花蕾が葉で覆われるので、寒さや霜による障害を受けにくい。低温期でも生育は劣らず、揃いも良い。

(3) こんにちは【サカタのタネ】

播種後105～110日で収穫できるアントシアンが発生しない中生品種で、草姿は立性で草勢はやや強く、花蕾の位置はやや低い。花蕾は濃い緑となり、小粒で、外観はドーム形状となり、外観に優れる。中早生品種の「おはよう」に特性が似ているが、収穫適期は10～14日程遅くなる。

(4) こんばんは【サカタのタネ】

播種後150日前後で収穫できるアントシアンが発生しない晩生品種で、草姿は立性で、草勢はやや強い。花蕾は濃い緑となり、小粒で、外観はドーム形状となり、外観に優れる。

(5) 緑竜【小松種苗】

平坦地での8月中旬播種で105日前後に収穫となる中早生品種で、花蕾はボリュームのあるドーム型で締まりの良い形状となる。草姿は半開帳性で根張りが良い。厳寒期栽培や根痛みで花蕾にアントシアンが発生する場合がある。

(6) 深碧【小松種苗】

平坦地での8月中下旬播種で120日前後に収穫となる中生品種で花蕾はボリュームのあるドーム型で締まりの良い形状となる。低温肥大性に優れ、草姿は半開帳性で根張りが良い。厳寒期栽培や肥料切れで花蕾にアントシアンが発生する場合がある。

(7) ドームツリー【雪印種苗】

播種後120日前後で収穫できる中生品種で花蕾は濃い緑色のドーム状となり、変形が遅い。花粒が細かく揃い、花蕾腐敗しにくい。草姿は半開帳性で旺盛に育つため、ボリュームのある花蕾が収穫できる。耐寒性に優れ、寒さによる花蕾の斑点や脱色が発生しにくい。厳寒期にアントシアンの発生が見られる場合がある。

作成：卜部





# 農業経営のリスクを減らしましょう

## ☆熱中症対策について☆

JA全農ちば  
営農支援部

### 1. 新型コロナウイルス感染症防止対策と熱中症について

新型コロナウイルス感染症防止のため、マスク着用で農作業をせざるを得ない場面もあり、熱中症の発生にも注意が必要です。屋外・ハウス内で他者と十分な距離（2m以上）が確保できる場合は、熱中症のリスクも考慮しマスクをはずすようにしましょう。

### 2. 「他人事ではない」熱中症

最近の夏は、「猛暑」と呼ばれる30度を超える高温が続きます。熱中症による死亡事故は、**7～8月で多く発生**していますので、今後注意が必要です。

熱中症による死亡事故は、**ここ10年で約200件**であり県内でも発生しています。その多くは**70代以上の方々**です。死亡事例をみると、ベテラン農家さんや体力に自信を持っている方でも起きています。あなたと家族、従業員の命を守るためにも、熱中症対策をしましょう！

### 3. 熱中症の症状

以下の症状が、熱中症の代表的な症状です。  
これらの症状以外でも『暑い環境での体調不良』は全て熱中症の可能性ががあります。

- (1)めまい・吐き気
- (2)頭痛
- (3)手足のしびれ
- (4)汗が大量に出る  
汗が出なくなる



- (5)体・顔が熱い
- (6)まっすぐ歩けない
- (7)筋肉のこむら返り
- (8)意識障害が起こる

### 4. 熱中症対策

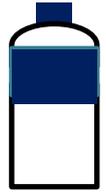
#### (1) 2人以上での作業、もしくは携帯などを持参し助けを呼べる体制をつくりましょう

熱中症は、急にぐらっと倒れてしまうこともあります。実際に発見が遅くなってしまい死亡事故に繋がってしまったケースもあります。緊急事態に『すぐに』気づいてもらうことや助けを呼べる体制が大切です。



## (2) 適度に水分・塩分補給をしましょう

汗とともに体内の『塩分』と『ミネラル』が放出されます。そのため、適度に水分・塩分を補給することが大切です。また、スポーツドリンクのような『塩分』+『糖分』も一緒に摂ると体内への塩分吸収が良くなります。高齢者の方はのどの渇きや気温の上昇を感じづらく脱水しやすいため、こまめな水分・塩分補給が必要です。



## (3) 適度に休憩をとりましょう

日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着をゆるめ、手足を露出して体温を下げましょう。夏場は休憩回数を多くするのも効果的です。

## (4) 気温だけでなく暑さ指数も参考にしましょう

環境省では、暑さの厳しさを示す指標を出しています。気温だけでなく、暑さ指数も参照して作業環境を確認しましょう。

環境省：熱中症予防情報サイト：[http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt\\_data.php](http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php)

# 5. 応急処置について

### (1) 水分補給をしましょう！

⇒経口補水液も有効です。水1Lに対し、砂糖 40g、塩 3g で作れます。

### (2) 体温を下げましょう！

⇒首筋、両脇、足の付け根などを冷やすと効果的です。

### (3) 安静にして十分な休憩をとりましょう！

⇒横になって休みましょう。心臓への血流がよくなります。

### (4) 救急搬送をしましょう！

⇒自力で水が飲めない、意識がない場合、すみやかに119番で救急車を呼びましょう。

**熱中症は他人事ではありません！**

**「自分は大丈夫…」ではなく、自分自身や家族・従業員の命を守るためにも、熱中症対策をしましょう！**

作成者：名雪・田代